

## キャンパスへのアクセス

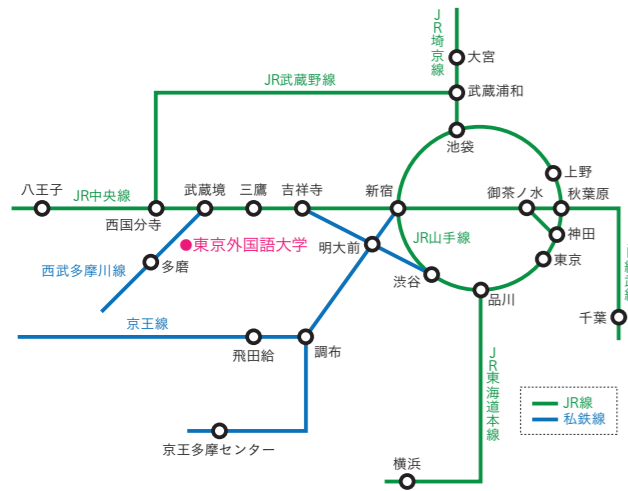
### 府中キャンパス



電車: JR中央線武蔵境駅  
→ 西武多摩川線多磨駅  
→ キャンパス 5分

バス: 京王線飛田給駅 → キャンパス 7分  
京王バス「多磨駅行き」のバスで「東京外国語大学前」下車

徒歩: 京王線飛田給駅 → キャンパス 20分



多磨駅までのアクセス ※目安時間

- 東京駅から 46分 中央線快速利用
- 上野駅から 52分 京浜東北線・中央線快速利用
- 横浜駅から 67分 東海道本線利用
- 千葉駅から 98分 総武線快速・中央線快速利用
- 大宮駅から 69分 埼京線・武蔵野線利用

### お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1  
東京外国語大学 入試課  
Tel: 042-330-5179

2017年7月5日発行

# 東京外国語大学

Tokyo University of Foreign Studies

大学院総合国際学研究科 博士前期・後期課程案内2018

# Graduate School

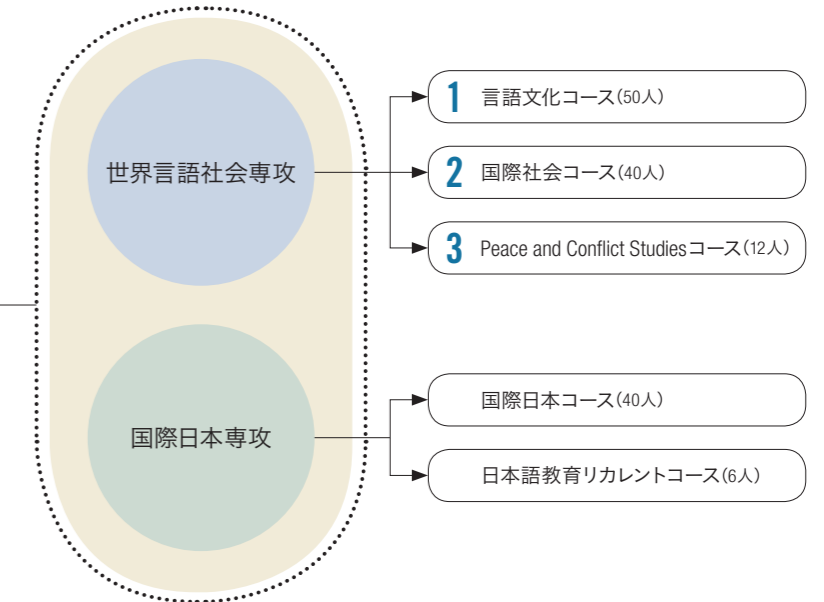


# TUFS Towards Interculturality through Language and Area Studies



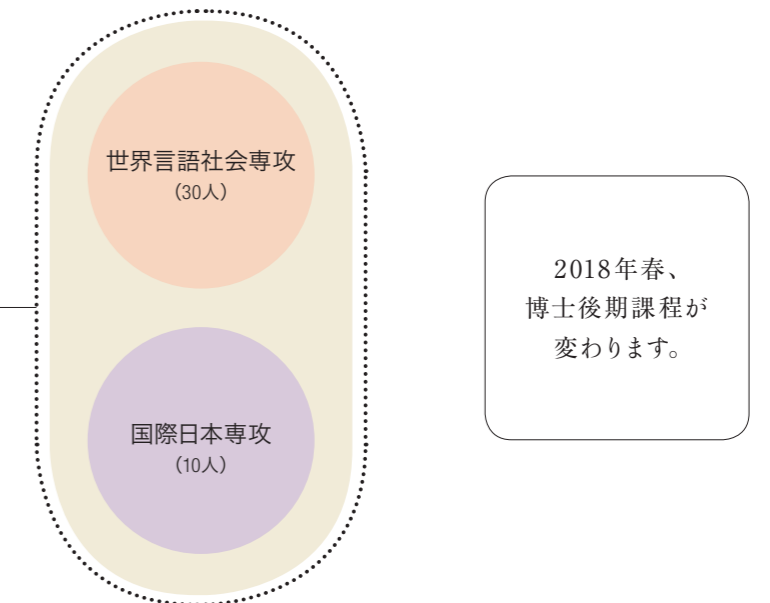
## 世界を学ぶ、 日本を学ぶ 博士前期課程

世界言語社会専攻と国際  
日本専攻の2つの専攻か  
らなります。



## 人文社会科学 諸分野を究める 博士後期課程

世界言語社会専攻と国際  
日本専攻の2つの専攻か  
らなります。



## Contents

- 総合国際学研究科概要 — 3
- キャリア・プログラム — 4
- 博士前期課程 — 6
- 修士論文 — 15
- 博士後期課程 — 16
- 教員一覧 — 18
- 就職先 — 20
- 研究科長メッセージ — 21
- 入試情報 — 22

東京外国語大学大学院総合国際学研究科は、世界諸地域の言語・文化・社会をめぐる個別的かつ総合的な研究を主体とする我が国でも有数の教育機関であり、これらの分野における国際的拠点としての使命を担っています。

従来から我が国と交流関係の深かったアジア地域、ヨーロッパ地域、アメリカ地域の言語・文化・社会に関する研究と教育では、百年を越す伝統を誇っています。その後、本学が研究・教育対象とする地域は拡大し、現在では、東南アジア、中東、東欧諸地域の言語・文化・社会の研究と教育も行うなど世界的な拠点となっています。また、日本研究および日本語教育の国際的拠点でもあります。

このような背景をもつ本学大学院は、研究者を含む高度職業人の養成を目指しています。グローバル化の進行する現代社会で真に貢献できる人材には、専門分野でのより深い知識や高度な技術が求められています。本学大学院は、研究力に加え、総合力、実践力、そして世界で活躍するうえで必要な日本力を身につけ、世界や日本でグローバルに活躍することを目指す皆さんの挑戦を待っています。

## 将来につながるキャリア・プログラム

大学院は専門的な研究の場であると同時に、修了後の皆さんを社会へとつないでいく場でもあります。専門分野での学術的な研鑽を活かすためにも、次のステップを意識した準備を進めましょう。大学院博士前期課程では、修了後のキャリア形成につながる複数のプログラムを用意しています。これらは、いずれの専攻、コースに所属していても履修することができます。一定の単位を満たした場合には、キャリア・プログラムごとに「プログラム修了書」が授与されます。大学院での学びを活かし、世界や日本のさまざまな現場で働く「夢」をもつ皆さんを、後押しします。



### 日本語教育実践プログラム

世界の各地や日本のさまざまな場所で、日本語をきちんと教えることのできる人が必要とされています。だからこそ、「日本」を専攻する院生だけでなく、世界の「言語・文化・社会」を学ぶ院生の多くに履修してほしいのが、この日本語教育実践プログラムです。外国語としての日本語とその教え方について学び、短期の実習も行います。在学中および修了後に、国内外で日本語を教えるための基本的な知識と経験を獲得しましょう。



### 多文化コーディネーター養成プログラム

多言語・多文化化する日本では、教育、行政、地域社会などの各分野で、文化や価値観の異なる人々との共存に向けてコーディネーションが行える人材が求められています。本プログラムは、日本社会の今を多面的に学び、多文化社会におけるコーディネーションに必要な知識を身につけるためのプログラムです。専門分野の研究にあたる一方で、プラスαの多文化コーディネーション力も身につけましょう。



### CEFRに準拠した新しい外国語教育プログラム

現在、世界の外国語教育は、学習者の習得レベルを示す国際標準規格である「ヨーロッパ言語共通参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages: 通称 CEFR)」に基づいた教授・学習・評価が中心になりつつあります。このCEFR準拠の外国語教育の理念や方法を理解し、各言語においてCEFR利用環境を整えることは、将来外国語を専門的に教えたい、外国語を活かして仕事をしたいという院生に有益なキャリア知識・技能となり、将来プロとして働く際の必要な素養の一つとなるでしょう。



### 世界史教育プログラム

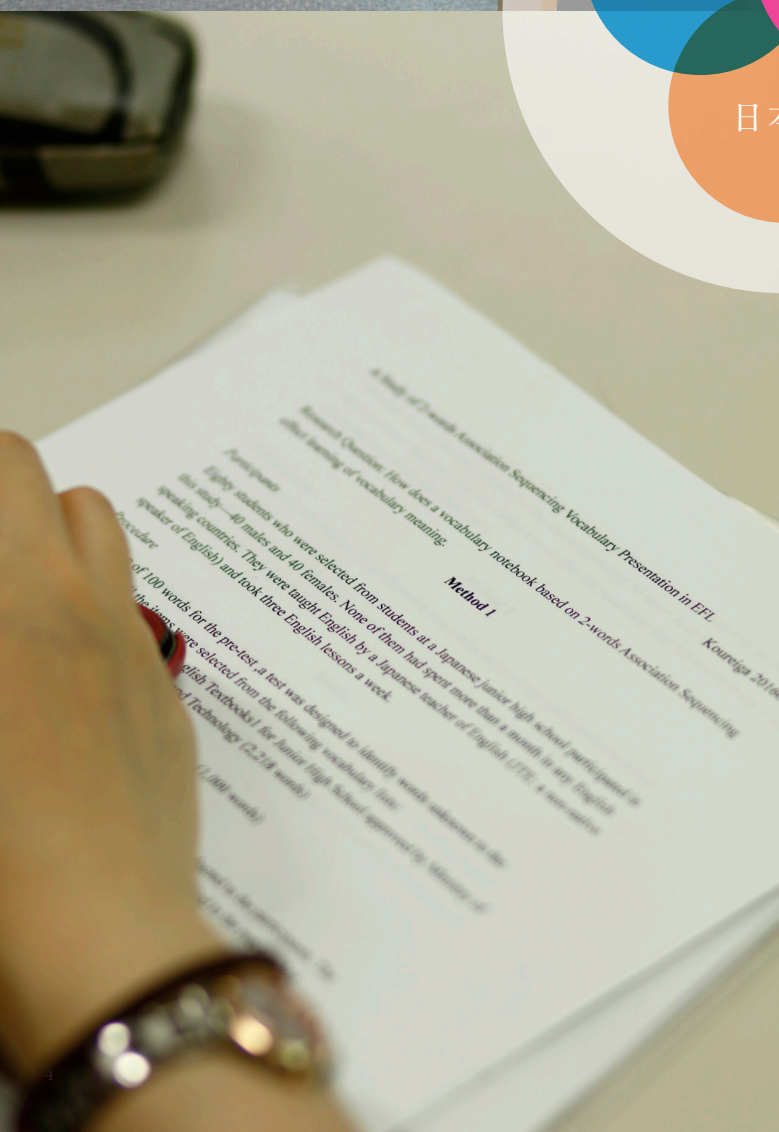
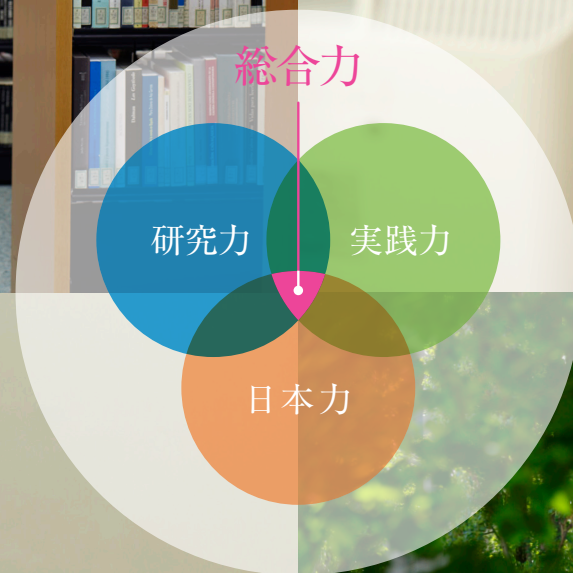
国際社会コースの院生は、中学の社会、高校の地理歴史の一種免許状を取得できます。このプログラムでは、さらに高校の地理歴史科教員の専修免許の取得を目指す院生を支援します。「世界史教育1」では、意欲の高い高校教員向けの世界史セミナーへの参加を中心に、歴史教育の深みと現状に触れます。また、「世界史教育2」では、歴史学方法の基礎と史料の読み方について実践的な教育を受けます。



### 国際行政入門プログラム

将来、官公庁等で行政に携わろうとする院生に向けたプログラムで、行政に必要な政治学と経済学に関する基礎知識とその考え方を習得します。また、国家公務員採用総合職試験(院卒者試験・大卒程度試験)、外務省専門職員採用試験を中心に、公務員試験の専門試験(多肢選択式、記述式)に対応できる基礎的な知識を身につけ、実践的な解法を習得します。

大学院  
総合国際学研究科が  
目指す人材育成



# 世界言語社会専攻

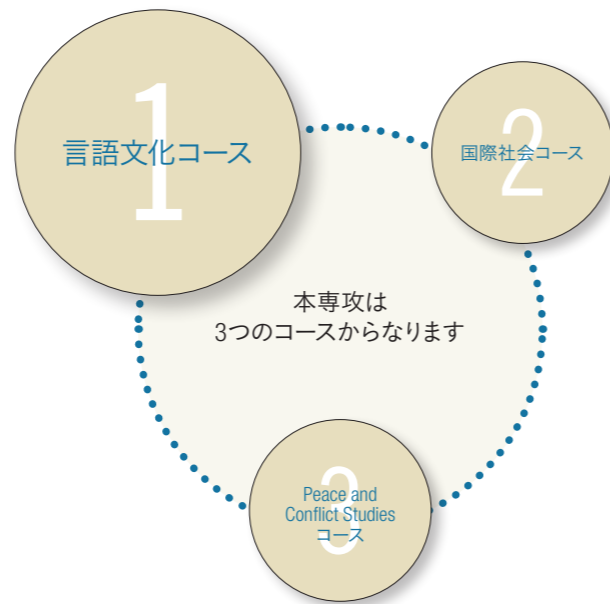
世界言語社会専攻では、世界諸地域の言語・文化・社会や国際社会を、複合的・総合的に捉える視点から研究し、地球社会化時代にふさわしい多言語グローバル人材を養成します。

## 言語文化コース

本コースでは、東京外国語大学における言語研究および文化研究の長い蓄積を活かし、世界諸地域の言語・文化に関する専門的教育研究を推進します。英語教育や実践的な通訳翻訳教育も、本コースに含まれます。言語研究の分野では、個別言語に関する文法論や形態論、意味論、語用論などのほか、一般言語学や社会言語学、対照言語学、音声学、言語情報学などを扱います。文化・文学の分野では、世界の諸言語で書かれたテキスト(詩、小説、哲学、思想など)に依拠した研究や、伝統文化や超域文化、古典文化を扱う研究が可能です。本コースでは、世界の言語現象や文化現象への理解を深め、複雑化する言語や文化の状況をより正確に把握し、対処する能力をもった人材を養成します。

### [専門科目群]

英語・英語教育学研究、ヨーロッパ・アメリカ言語研究、アジア・アフリカ言語研究、言語学研究、音声学、言語情報学研究、認知科学研究、通訳翻訳実践研究、ヨーロッパ・アメリカ文学・文化研究、アジア・アフリカ文学・文化研究、古典文学・文化研究、人間文化研究

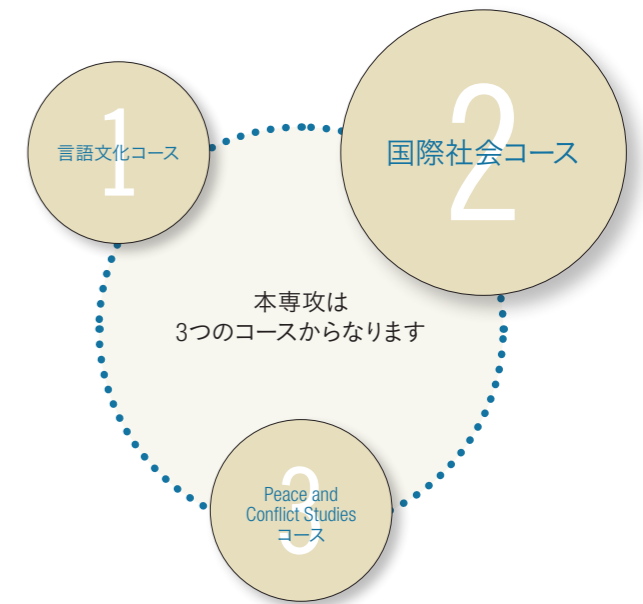


## 国際社会コース

本コースでは、世界諸地域の社会ならびに国際社会に関する専門的教育研究を推進し、コーディネート力、コンフリクトへの耐性を備えた人材を養成します。キーワードは、ローカルとグローバルです。そして、求められているのはその2つの融合です。ローカルな地域研究はもはや存在しません。地域概念そのものがグローバル化によって再編成されているからです。一方、グローバルな国際関係論や政治学、経済学の研究もローカルな現実への理解なくしては、問題の真相に迫ることができません。本学の国際社会コースは、東京外国語大学における長年の地域研究の蓄積を活かし、グローバル化する現代社会を深く理解し、問題解決に資する人材を養成します。

### [専門科目群]

ヨーロッパ・アメリカ地域研究、アジア・アフリカ・オセアニア地域研究、現代世界論研究、国際関係研究



### 教員メッセージ

Message

#### 八木久美子

大学院総合国際学研究院教授



私のゼミは題目名から、アラブ世界のイスラムという宗教について学ぶゼミと思われるかもしれませんが、それだけではありません。確かに私の研究対象がアラブ世界のイスラムなので、この地域に関する題材を扱うことが多くはなりますが、このゼミの狙いは、より広く宗教という現象を分析する方法、多様なアプローチを習得することです。実際に、アラブ世界だけでなく、さまざまな地域の宗教や文化を研究している学生が参加しています。自分のフィールドに閉じこもらず、異なる地域を研究対象とする学生とともに学ぶことで、思いがけない着想が得られるのではないかと思います。

### 在学生メッセージ

Message

#### 今井健人

博士前期課程2年



「抽象」と呼ばれる絵画の誕生と、それをめぐる批評行為について研究しています。現在は、米国人画家サイ・トゥオンブリー(1928-2011)の絵画を中心に取り組んでいます。この画家は、子供の落書きにさえ思われるような絵画を遺しています。一体、何が「落書き」と「作品」とを隔ているのか。現代の作品はしばしば「よくわからない」ものだと思われています。しかし、我々と作品との間のこの「溝」こそが、我々に思考を促し、日常に新たなまなざしを与えてくれるように思われます。これは芸術が自然の模倣を止めてなお、今日も創造され続けている理由の一つではないでしょうか。

### 教員メッセージ

Message

#### 金井光太郎

大学院総合国際学研究院教授



アメリカを通じて歴史とは何かに迫っています。合衆国という一見わかりやすい国が入植以来400年間に、建国以来200年間にどのように変動したか。この間、自由と平等そして幸福も決して同一であったわけではありません。人はなぜ差別をし、また改革できるのか。改革を逆行させることもある。そうした人間の複雑さを知り、現在の自己の常識を疑い、時代の趨勢を理解し多様な可能性からどのような世界を選び取ってゆくか、そのための知性を磨くことが目的です。クラスでは難解な書物を読みます。それを読みこむことで既存の知を壊し、新たな知へと成長することを目指しています。

### 在学生メッセージ

Message

#### 千野希

博士前期課程2年



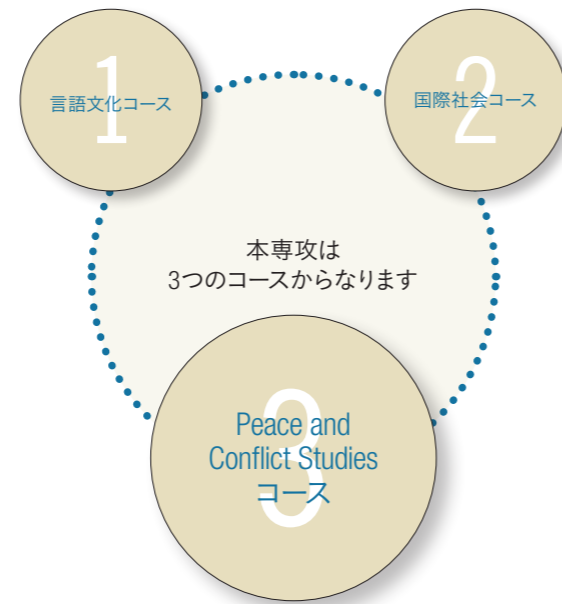
都市空間は、上から新たに文字を書き加えた羊皮紙、パリンペストのようだとされます。都市もまた、歴史が幾層にも積み重なって成立しています。表層からは見えにくい政治性や歴史認識は、再建や復興の過程を研究することで明らかになります。卒業論文では、第二次世界大戦後のヴロツワフにおける都市復興について執筆しました。現在は、同じく社会主義体制下で復興が行われた、東ドイツの都市を研究しています。先生方や友人に囲まれながら、刺激的な日々を送っています。さまざまな場面で新しい発見に出会えることが、大学院生活の楽しみです。

## Peace and Conflict Studiesコース(10月入学)

紛争を抱えた地域の諸大学とのネットワークを活用した紛争・平和構築に関する研究を推進し、国際社会で活躍し、平和構築に寄与する国際的リーダーを養成します。教育はすべて英語で行われます。

Peace and Conflict Studies (PCS) Course  
(October Admission)

Peace and Conflict Studies (PCS) is an interdisciplinary research and educational program launched in 2004. It aims to fulfill the recognized need in many parts of the world for professionals with expertise in peace and conflict, violence, peacebuilding, and other related global and transnational issues. Each year the program admits a small but diverse group of individuals from all over the globe and provides them with unique opportunities to learn critical approaches to the issues of utmost importance to many people in today's conflict-laden world. All courses are held in English.



## 教員メッセージ

## Yasuyuki Matsunaga

Professor, Graduate School of Global Studies

I teach an introductory seminar on conflict and contentious politics. The goal of this seminar, titled PCS Research Methodology, is to introduce to incoming PCS MA students social scientific approaches to studying conflicts and conflict-related political processes. The PCS program at TUFSS attracts students from divergent backgrounds, not only in terms of their countries of origin but also in terms of their previous academic and professional trainings.

Therefore, in order to ensure that they are on the same page, roughly speaking, we start with foundational readings on the goals of social scientific inquiry and what constitutes explanation in various social scientific traditions. Then we cover such topics as theories of conflict, divergent conceptions of group identity, the mechanisms and processes of collective mobilization and political violence, and analytical approaches to culture and contentious politics. We also read and discuss books and articles that analyze, and sometime advocate, nonviolent approaches to social activism and radical reforms.

Prior to each class meetings, the students receive the week's reading materials and corresponding assignment

questions. They are asked to write well-thought-out and nuanced answers to the questions and send them to me via email by the night before each class meeting. The purpose of these assignments is to help the seminar participants be better-prepared for three-hour-long critical and collective engagement with the materials. To ensure further that the participants get the opportunity to review the materials again weeks later, I give the students an in-class midterm examination and a final-take-home assignment. The students also receive the list of recommended readings on each topic that the seminar covers so that they may continue reading based on their individual interests.

This is the structure of the introductory seminar that I have taught every year at TUFSS's PCS program since 2008. Those students who have found it useful go on to take the follow-up seminar entitled Advanced Seminar on Conflict and Contentious Politics in the ensuing semester. A number of students have chosen to work on their thesis topics using some of the analytical approaches this seminar covers.



Message

## アジア・アフリカ・フィールドサイエンス・プログラム

世界言語社会専攻の複数のコースを横断するプログラムとして開設されています。「フィールドサイエンス」とは、臨地調査(フィールドワーク)を理論的・実践的に高度化した研究手法のことです。この手法を用いて、アジア・アフリカの諸地域に分け入る研究を指導します。

本プログラムは、専攻共通科目の「アジア・アフリカ・フィールドサイエンス基礎」、「アジア・ア

フリカ・フィールドサイエンス実践研究」、言語文化コースの「アジア・アフリカ・フィールドサイエンス言語研究」、国際社会コースの「アジア・アフリカ・フィールドサイエンス地域研究」からなっており、本学のアジア・アフリカ言語文化研究所の教員が指導します。夏学期には、他大学の学生とともに学ぶ「中東イスラーム教育セミナー」が、本プログラムの一部として開催されます。



## 在学生メッセージ

## Tunzine Amelia Maisha Silas

Second-Year PCS Student

Conflict is an inescapable reality of the world we live in. Regardless if we are participating in a social movement or providing help to people in need, immersed in a conflict environment and trying to get out, or we give shelter to those escaping it; one fact remains: conflict is directly and indirectly affecting our lives and shaping our world in a multitude of ways.

Here at PCS I found like-minded individuals that come from very distinct backgrounds that share a common interest for peace and development and are keen to become agents of change either through theoretical or practical work.

Personally, I have International Relations and Diplomacy as a Bachelor Degree and work experience with Media on topics related to children's rights, girls' education and civil electoral education. Joining PCS gave me the opportunity to meet and interact with people with expertises in different fields that brought a new point of view on issues of my interest.

Therefore, I believe that diversity is one of the key characteristics of the TUFSS PCS program. Besides the multicultural environment, every semester, we are provided

with a variety of interesting topics to choose from that range from theoretical tools to practical models dealing with the complexities that drive conflict. While some of the topics were familiar to me, I could still learn new concepts and deepen my understanding on these fields. I have now gained confidence in disseminating and applying this knowledge.

My country (Mozambique) went through a harsh 16-year civil war and has recently experienced episodes of violence. For this reason, I have a particular interest in conflict recurrence and conflict prevention strategies. During my first semester at TUFSS, I also developed an interest in the conflict that is delaying the nation-building of the newest country in the world, South Sudan. This later became the case study in my MA Thesis.

Furthermore, being such a small and diverse group of students, we're all highly encouraged to share our thoughts and experiences. Combining a foreign perception with our local experience was very constructive. Thus, the value for mutual understanding and respect for our, sometimes, divergent ways of thinking are highlights of the PCS experience here at TUFSS.



Message

# 国際日本専攻

国際日本専攻では、世界の諸言語の中での日本語・日本語教育、世界の中の日本文化と日本社会を比較の視座をもって研究し、日本についての客観的な視座をもつ人材を養成します。

## 国際日本コース

世界の諸言語の中での日本語・日本語教育、世界の多様な文化・社会の中での日本文化と日本社会を比較の視座をもって研究し、日本についての客観的な視座をもつ人材を養成します。研究領域としては、「日本語学研究」「日本語教育学研究」「日本語文学・文化研究」「日本社会研究」の4つで構成されます。しかしそれぞれが分立するのではなく、接近する形で研究・教育を行っています。4つの領域をまたがる形で研究することで、全体として日本への理解を深めることができます。



## 専攻長メッセージ

Message

### 早津恵美子

大学院国際日本学研究院  
研究院長/教授



国際日本専攻は、「国際日本コース」と「日本語教育リカレントコース」の2つのコースからなります。

国際日本コースは、「日本語学研究」「日本語教育学研究」「日本語文学・文化研究」「日本社会研究」の4つの研究領域で構成されていて、それぞれの授業が開講されます。皆さんはいずれかの研究領域を究めることになるでしょう。

しかし、各自の専門の核をもちつつも、そこに閉じこもってしまうのではなく、まわりの領域に目をむけそこから学ぶことで、自身の核をより豊かにして欲しいと思っています。

「日本語教育リカレントコース」は、海外で日本語教育に従事してきた経験者を対象としたユニークなコースで、1年間で修了して修士号を取得します。単なる教員養成プログラムではありません。これまで研究という視点で日本語に接する機会が少なかったかもしれない方々に、あらためて日

本と日本語について学んでもらいたいと考えています。ただし、日本語教育リカレントコースの授業は、国際日本コースの授業と別だてになっているわけではありません。したがってそれぞれのコースに属する学生同士が、授業などを通して、相互の経験や関心をもとに互いに刺激し合い学び合うことができます。それができるのもこの国際日本専攻の魅力です。

東京外国語大学には、海外からの留学生への日本語教育をはじめとして、日本・日本語の研究・教育における長い歴史と豊富な実績があります。そして、日本の言語・文化・社会を、世界の諸地域のそれらの中で相対的に捉え、個別のなかに一般を、一般のなかに個別をみだそうとする研究・教育を行ってきました。そういった東京外大で、日本と日本語についての良質な教養を身につけて、「日本発信力」を強化して欲しいと期待しています。

## 在学生メッセージ

Message

### Flavio Figueira

博士前期課程2年



対照的な視点から日本語からポルトガル語への翻訳について研究したいと思い、言語研究に強みをもつ東京外国語大学の大学院を目指しました。特に日本語の役割語—いわゆる言語上のステレオタイプ—を中心にしています。日本語の役割語の言語的な特徴に着目し、ポルトガル語でどのような言語的な特徴のもとで対応しているかを分析しています。

将来は博士前期だけではなく、博士後期まで進み、教師でありながら、研究者の活動もしていきたいと思っています。そのうえで、日本語とブラジル・ポルトガル語の間の研究に貢献できれば幸いです。

## 在学生メッセージ

Message

### 高田麻由

博士前期課程2年



2013年の夏から2年間、青年海外協力隊に参加し、日本語教師としてバングラデシュに派遣されていました。日本語を学びたいと考えている多くの学生や熱心な先生たちと触れ合い、もっと深く日本語教育について学び、彼らの役に立ちたいと考えたことが大学院進学への動機です。

大学院では、協力隊での経験を活かして、海外の日本語教育に焦点を当てた研究をしています。大学院在学中にも海外でフィールドワークに出て、現場で実際に起こっていることに焦点を当てたいと考えています。将来は海外の現場に戻って、より専門的な仕事に携わりたいと考えています。

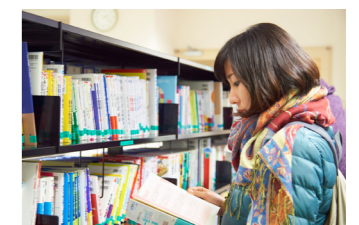
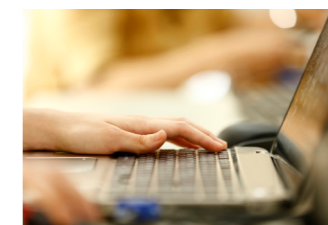
## 日本語教育リカレントコース(1年・10月入学)

日本語教育リカレントコースは、海外で働く現職の日本語教育者を対象に開設されました。本学で1年間、勉学・研究に専念して学位(修士号)を取得し、その後、所属機関に戻り、日本語教育の発展に貢献する道を歩む方が、募集の対象となります。

入学時期は、10月です。応募資格は、①3年以上の日本語教育歴をもつこと、②出願時において

日本国外に居住していること、③日本語が母語でない方については、日本語能力試験 N2以上を取得していること、などです。

2016年10月に第一期生の受け入れを開始し、ベトナム、タイ、モンゴル、カンボジアなどで日本語教育に従事されている方々が合格しました。世界各地の教育現場で日本語を教えている方々の応募をお待ちしています。



## 日本語学研究

本領域では、国際的な視野に立ち東京外国語大学で教育研究される「外国語」の一つとして「日本語」を扱います。日本語の文法(構文論・形態論)、語彙論、語用論、日本語の歴史、さまざまな方言の特徴や分布、他の言語との比較による対照日本語研究などを研究することが可能です。日本語を深く知ることとは、日本語を教えるうえでも不可欠です。日本語学を研究し、日本語教育の道に進む方も少なくありません。

## [専門科目群]

日本語学研究、対照日本語研究

## 教員メッセージ

Message

## 花蘭 悟

大学院国際日本学研究院  
准教授



私の専門は現代日本語文法、特にモダリティ(文の「述べ方」)ですが、日本語を教えるはじめてから記述が不十分なことに気づいた複合助詞や、日本語研究に大きな足跡を残した奥田靖雄氏を中心とした現代日本語学史にも興味をもって調査しています。また日本語教育の方法を応用して、博士論文執筆中に興味をもった沖縄語の教科書作成も行いました。「対象日本語研究」としてモダリティやテンス・アスペクトなどの文法的なカテゴリーについて、できる限りさまざまな言語と対照させることによって日本語の特質を考えられることができるような授業を行う予定です。

## 日本語教育学研究

日本語教育の需要は国内外で高まっています。本領域では、語彙意味論、語用論、文法論、理論言語学、認知言語学、社会言語学、第二言語習得理論、教授法、コースデザイン論、教材研究、評価法、談話分析、異文化コミュニケーションなどの授業を通じ、多面的に日本語教育を学びます。学問的な知識と研究能力を身につけ、日本語教育実習で得た実践力をもって、指導的な立場に立って日本語教育の現場を牽引していくことのできる人材を養成します。

## [専門科目群]

日本語教育学研究、日本語教育実践研究

## 教員メッセージ

Message

## 石澤 徹

大学院国際日本学研究院  
講師



この科目は複数の教員が担当しており、日本語教育の実現場と理論を多角的な視点で分析していきます。私の授業では、特に日本語の音声教育を例に、言語教育・言語習得の観点に立った研究について知識を深めながら、学習者が日本語を学ぶ際に何が問題となるのか、教師はどのようなことを考慮するべきかについて考えていきます。授業の中では、受講者が自身のテーマに基づく発表も行っています。授業を通して、日本語教育学における研究の概観・批判的検討を行い、受講者自身の研究を深める第一歩となることを目指しています。

## 日本語文学・文化研究

本領域では、古典文学、現代文学、文化研究などを学びます。とはいえ、本領域は、一般的な「国文学」のコースとは違います。それは、海外からの多くの留学生と日本人の学生が一緒に学ぶことで、外からの目をもって、日本語で生み出された文学・文化を検証することを目指しているからです。外国文学としての日本語文学、グローバルな現代日本の文化など、テーマは世界に向かって開かれています。対象となるテキストの解釈などは、日本語の原典を用いて、国文学など従来の「学」の成果を十分に取り入れ、厳密に行うことは、言うまでもありません。

## [専門科目群]

日本語文学・文化研究、日本比較文学・文化研究

## 教員メッセージ

Message

## 村尾 誠一

大学院国際日本学研究院  
教授



私の専門は日本古典文学です。研究の中心は、12世紀から16世紀の和歌文学の表現をはじめ諸相の分析となりますが、そこを核に、広い範囲に研究を展開させようとしています。授業は、日本語文学・文化研究では、春学期に古典文学の基礎、秋学期に書誌学(古典の書物に関する学)の基礎を学べるようにしています。日本比較文学・文化研究では、研究室の院生達が積み上げてきた実績をもとに、和漢比較文学の専門的な演習を行っています。テキストにも平安時代の写本の写真版を用いて、厳密な読解をもとに議論を進めるようにしています。

## 日本社会研究

本領域では、日本社会を歴史、政治、思想、芸術、文化交流といった角度から多様なアプローチで研究します。また、本学教員に加え、世界トップレベルの7機関で構成されているアジア・アフリカ研究教育コンソーシアムから招聘した優秀な日本学研究者により、日本語・英語の両言語での教育を提供します。そして、世界とのつながりの中でグローバルな視座から日本文化を捉え、広く国内外に発信できる人材の育成を目指します。

## [専門科目群]

日本社会研究、国際文化交流研究

## 教員メッセージ

Message

## ジョン・ポーター

大学院国際日本学研究院  
講師



「19世紀日本の巨大都市における貧民の救済と統制」というテーマのもと、幕末・維新期の公文書や地域史料を読んでいきます。活字史料から読んでもらい、史料に即した社会像を構築するという実証的な歴史学研究方法を学んでいきます。併せて19世紀日本の都市社会の実態にも言及していきます。テーマの設定は『史料集明治初期被差別部落』の中で興味をもったもの数個を選択する形で行います。その史料が問題としている諸事象をテーマにし、各自テーマを小グループで担当。各グループは、授業中に一回の発表を行い、期末に簡略な成果報告を提出してもらいます。

## 博士前期課程開講科目

総合国際学研究所	[研究科共通科目]	総合国際学研究基礎／異分野交流ゼミ／多文化コーディネーション研究／言語教育基礎／日本語教育基礎／国際行政入門／世界史教育
世界言語社会専攻	[専攻共通科目]	学術英語演習／学術日本語演習／学術ドイツ語演習／学術フランス語演習／学術イタリア語演習／学術スペイン語演習／学術ポルトガル語演習／学術ロシア語演習／学術ポーランド語演習／学術チェコ語演習／学術中国語演習／学術朝鮮語演習／学術モンゴル語演習／学術インドネシア語演習／学術マレーシア語演習／学術フィリピン語演習／学術タイ語演習／学術ラオス語演習／学術ベトナム語演習／学術カンボジア語演習／学術ビルマ語演習／学術ヒンディー語演習／学術ウルドゥー語演習／学術アラビア語演習／学術ベンガル語演習／学術ペルシア語演習／学術トルコ語演習／アジア・アフリカフィールドサイエンス基礎／アジア・アフリカフィールドサイエンス実践研究／修士論文修士研究ゼミ
	言語文化コース	英語学・英語教育学研究／ヨーロッパ・アメリカ言語研究／アジア・アフリカ言語研究／言語学研究／音声学研究／言語情報学研究／認知科学研究／通訳翻訳実践研究／ヨーロッパ・アメリカ文学・文化研究／アジア・アフリカ文学・文化研究／古典文学・文化研究／人間文化研究／アジア・アフリカフィールドサイエンス言語研究
	国際社会コース	ヨーロッパ・アメリカ地域研究／アジア・アフリカ・オセアニア地域研究／現代世界論研究／国際関係研究／アジア・アフリカフィールドサイエンス地域研究
	PCSコース	Foundation for Peacebuilding／Applied Peacebuilding／Conflict and Social Change／PCS Research Methodology／International Relations and Cooperation
国際日本専攻	[専攻共通科目]	日本語学研究／対照日本語研究／日本語教育学研究／日本語教育実践研究／日本語文学・文化研究／日本比較文学・文化研究／日本社会研究／国際文化交流研究／Japan Studies／発信英語演習／発信日本語演習／修士論文修士研究ゼミ

**■総合国際学研究基礎**

研究を遂行する  
基礎力を身につける

大学院生としてスタートを切る1年次春学期に、研究に必要なリサーチ力、プレゼンテーション力、ディベート力などを身につけ、研究基礎力を養うための授業です。リサーチデザイン、統計手法などに関する講義を受けると同時に、日本語や英語で研究計画をプレゼンテーションする機会も設けます。(2単位必修)

**■異分野交流ゼミ**

分野や地域の枠を超えた  
活発な議論の輪

大学院生が数人単位でグループを形成し、分野や対象地域を超えた異分野交流を行うゼミです。異なる広がりをもつテーマを扱う学生が集まり、議論の中で自身の研究の足がかりを得ることを目的とします。テーマに関わる教員を「招待」し、そのコメントを活用することもスリリングで有用でしょう。(2単位必修)

**■学術表現演習**

論文を読む  
プレゼンをする

次の言語で行われます。  
英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、ウズベク語、ポーランド語、チェコ語、中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、マレーシア語、フィリピン語、タイ語、ラオス語、ベトナム語、カンボジア語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、ベンガル語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語

**■専門科目群**

専攻・コースに応じた  
多様で専門的な授業群

大学院での学びの中核となるのは専門科目の履修です。指導教員や副指導教員の授業、また関連する分野の教員の授業を履修します。そこでの指導に沿い修士研究を進めます。2年次には、「修士論文修士研究ゼミ」を履修し、修士論文を作成します。

**■短期海外留学**

Joint Education Programによる  
短期海外留学

本学では、春学期(4月～7月初旬)、夏学期(7月中旬～9月)、秋学期(10月～1月中旬)、冬学期(1月下旬～3月)からなるTUFSクォーター制を採用しています。  
海外で長期にわたる調査・研究が可能となるように、夏学期と冬学期には必修科目を置いていません。また、夏学期や冬学期を中心に海外協定校と「Joint Education Program」を行っており、海外協定校の教員のもとで指導を受ける、資料収集や現地調査を行うなど、多様な短期海外留学の機会があります。  
海外大学のサマーコースに参加する選択肢も豊富です。春に説明会を行うなど、留学支援体制も充実しています。

## 2016年度修士論文

### 世界言語社会専攻

<b>言語文化コース</b>	
<b>研究領域</b> 英語学・英語教育学研究	<b>修士論文の題目</b> 英語学習者による前置詞の誤用 —学習者コーパスに基づく実証的研究 学習辞典の「良い」用例の条件とは —ライティングにおける日本人英語学習者の用例使用の観点から認知意味論的手法を用いたコーパスに基づく英語前置詞研究 —ネイティブとノンネイティブコーパスを用いてCEFRレベルに基づく動詞-名詞コロケーションに関するコーパス研究
<b>ヨーロッパ・アメリカ言語研究</b>	イタリア語の小辞neについての再考察 フランス語のse voir+Vinf.構文について —受動表現を中心に—
<b>アジア・アフリカ言語研究</b>	タタール語の所有構造について 現代口語タミル語の動詞の Affective, Effective について ラオ語の指示詞/nī/ /nān/に関する研究 現代朝鮮語の形容詞の使用様相に対する計量的研究 —名詞との共起を中心に— フィジー語の他動詞節と名詞抱合
<b>言語学研究</b>	変化を表すquendar (se) における再帰代名詞 —認知言語学的考察— 対格の相関詞esと補文の仮想性／現実性について
<b>音声学研究</b>	中国黒竜江省太平村方言に関する音韻的研究
<b>通訳翻訳実践研究</b>	「フォーカス・オン・フォーム」アプローチが及ぼす学習動機づけの変容 —台湾と日本の国際比較— 相談通訳者の規範分析 —インタビュー調査をもとに— 「暮しの手帖」とわたし」日英翻訳
<b>ヨーロッパ・アメリカ文学・文化研究</b>	ローベルト・ヴァルザーの文学的モザイク —「盗賊」における断片性と構造的性— K.C.スタニスラフスキーによる俳優教育論 —いわゆる「スタニスラフスキー・システム」に関する考察—
<b>アジア・アフリカ文学・文化研究</b>	ウルドゥー・ガザルにおける韻律の研究 —ガーリブ詩集を題材に— アフメト・ハムディ・タンブナル「時間調整機構」研究 ラフィク・シャミ「夜の語り部」における「語り」の分析 現代イラン知識人アリー・シャリーアティ(1933-1977)の「キャヴィーリヤート Kaviriyāt」の位置づけをめぐって 「永遠の書」におけるムハンマド・イクバルの東西観 韓国語の多文化小説に見られる脱植民地主義 —全成太「見送り」を読む—
<b>国際社会コース</b>	
<b>研究領域</b> ヨーロッパ・アメリカ地域研究	<b>修士論文の題目</b> トルコのEU加盟交渉 —交渉第23項目「司法と基本的人権」の進捗を中心に— ブラジルにおけるメディア規制と世論形成 EU難民・移民危機におけるジェンダーに基づく暴力 —フランス・カレーの非公式難民キャンプ「ジャングル」の事例研究 共生と葛藤：現代ロシア正教会の対イスラーム観
<b>アジア・アフリカ・オセアニア地域研究</b>	「独立ラオス」実現に向けたラオ・イサラ亡命政府の選択 —プロバガンダ活動を中心に— 清代知識人における社会批判精神 —李汝珍「鏡花縁」が描く世界観— ロヒンギヤの生存戦略 —館林のロヒンギヤ・コミュニティを事例に— 新疆ウイグル自治区における遊牧民定住化プロジェクトに関する考察 —ホボクサイル・モンゴル自治県を事例として— 内モンゴル自治区におけるモンゴル民族義務教育について —赤峰市アルホルチン旗を事例に— 難民受入国としてのヨルダン —シリア難民流入に対するヨルダンの対応— 中央アジアにおける社会運動(1918-1938) —「バスマチ」運動の政治イデオロギーの考察
<b>現代世界論研究</b>	国際法における子ども兵士の戦争責任 —真実和解委員会の役割 多元文化社会における少数民族教育の現状 —中国内モンゴル自治区の民族教育を中心に— 中国少数民族言語保存における海外NGO・NPO援助活動の役割 —中国黒龍江省ウドル村モンゴル族小学校を事例として—
<b>国際関係研究</b>	国際法上の「共通利益」の実現可能性に関する研究 —引渡か訴追の義務事件を題材にして— 日本における難民認定制度と保護政策 —国際社会の中で求められる役割— 先進主要5ヶ国のODAが持つ先兵効果の検証
<b>Peace and Conflict Studies コース</b>	
<b>研究領域</b> Peace and Conflict Studies (PCS)	<b>修士論文の題目</b> Jemaat Ahmadiyah Indonesia in Persistence: Strategy of Negotiation on Struggling Authority to Manifest Religious Freedom in Indonesia Syrian refugees in Jordan, Lebanon and Turkey Limitation and Restriction Security Sector Reform in Post-war Sierra Leone—A Case Study Police Reform and the Rise of Corruption Human Trafficking in Micronesia and Other Pacific Islands Civil War in Syria : Key Factors that made Syria prone to facing the Uprising in 2011 and Analysis of the Uprising Escalation in 2011-2012

### 国際日本専攻

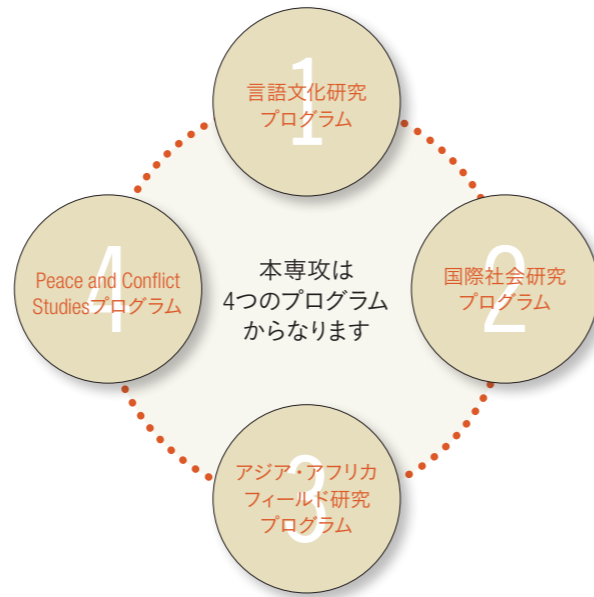
<b>国際日本コース</b>	
<b>研究領域</b> 日本語学研究	<b>修士論文の題目</b> 日本語の「に格」に関連する日韓対照研究 南琉球宮古語池間方言のnyaanについて 現代日本語の時間副詞について —副詞「しばらく」を中心に—
<b>日本語教育学研究</b>	Web教材の待遇コミュニケーション教育への応用 —遠隔授業におけるパフォーマンス・エクササイズの実践研究をもとに— 上下関係のある初対面3者間自由談話におけるスピーチレベルシフト —ディスコース・ポライトネス理論の観点から— 初対面雑談会話の話題転換ストラテジーの考察 —日中初対面大学生同士のデータをもとに— 原因・理由を表す接続助詞「から」「ので」の使い分け —日本語コーパスの調査を通じて— 日本語教科書における格助詞「に」 —初級教科書と中級教科書を中心に—
<b>日本語文学・文化研究</b>	ある映画作家の眼差し —佐藤真の未完のプロジェクト「トウキョウ」とは何だったのか 村上春樹作品研究 —登場人物の受動性をめぐって— 三島由紀夫文学におけるディオニュソス 村上春樹における「コミットメント」の諸相 —「ねじまき鳥クロニクル」から「1Q84」までを中心に— アジア・太平洋戦争期、占領地派遣宗教教師による日本語普及 —「支那派遣宗教教師錬成会」を中心に—
<b>日本社会研究</b>	戦後日本における家事労働者 明治初期東京の貧乏と地域社会 日本における高等専門学校の現状と課題 日本人における植民地都市大連の記憶の研究 —中島敦と松原一枝の「日本文学」を手掛かりとして—



# 世界言語社会専攻

## 世界を複合的・総合的に捉える

世界言語社会専攻では、世界諸地域の言語・文化・社会を複合的・総合的に捉える視点から教育・研究を行います。専門的知識や研究能力をもちつつ、一方で総合的で柔軟な対応力をもって多面的な課題に取り組むことができる人材を養成し、社会に送り出します。本専攻には、開設科目の体系を明示するため、4つの教育プログラムを置きます。学生は、主任指導教員が指導する分野のプログラムを選択し、所属プログラム内で体系的に履修するとともに、領域横断的な視座を獲得するため、他のプログラムで開講する隣接分野の科目を幅広く履修することが可能です。



### 言語文化研究プログラム

世界諸地域の言語や文化を個別あるいは対照的に研究対象とするとともに、複言語・複文化の視点を重視し、領域横断的な研究に取り組みます。

**【開講科目】**  
 言語学/言語情報学/英語学・英語教育学/音声学/ヨーロッパ・アメリカ言語論/アジア・アフリカ言語論/ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論/アジア・アフリカ文学・文化論/人間文化論

**【養成する人材像】**  
 ◎世界諸地域の言語の高度な運用能力をもち、その文化・社会に対する確かな知識・知見を身につけ、現代社会における諸課題を複合的・総合的に捉えることのできる人材  
 ◎言語研究、文学・文化研究、地域研究、国際関係研究、紛争・平和構築研究(Peace and Conflict Studies)等の領域における高度な専門知識を身につけた人材  
 ◎国内外の大学における研究者、国際機関等の専門職として活躍する高度職業人

### 国際社会研究プログラム

世界諸地域の具体的な歴史や社会、文化を分析し、国際社会の問題に取り組むための地域横断的な研究を行います。

**【開講科目】**  
 現代世界論/ヨーロッパ・アメリカ地域研究/アジア・アフリカ・オセアニア地域研究/国際関係論

### アジア・アフリカフィールド研究プログラム

アジア・アフリカを対象に、フィールドワーク手法を特色・強みとする言語学研究、人類学研究、地域研究分野の研究者を養成するプログラムです。

**【開講科目】**  
 アジア・アフリカフィールド言語学/アジア・アフリカフィールド人類学/アジア・アフリカフィールド地域研究/アジア・アフリカフィールドワーク

### Peace and Conflict Studiesプログラム(10月入学)

主に紛争当時国などからの留学生を受け入れ、国際社会で活躍し、平和構築に寄与する国際的リーダーを養成します。教育は英語で行われます。

**【開講科目】**  
 Applied Peacebuilding/ Conflict and Social Change/ Foundation for Peacebuilding

## 2016年度博士論文

Research into the Role of Dialog Recitation in the Foreign Language Classroom—Its Effectiveness in Facilitating Memorization and Formulaic Speech Production  
 TRADUZIONE: PRATICA E CONFRONTO  
 Il discorso narrativo in Higuchi Ichiyō attraverso le traduzioni  
 ポスト新自由主義期のポリビアの地方分権と農村開発—ラパス県アチャカチ市の事例—  
 課題解決に向けた三者間共同作業における言語行動—日本語とロシア語の対照研究—  
 建築プロジェクト・ソヴィエト宮殿の全体像と建設に関する研究：狂想と国家を双肩に担ったモニュメント

The Nordic Peace Approaches, Solutions, and Principles of Conflict Transformation  
 神学と宗教学の狭間で—R. オットー「聖なるもの」をめぐる—  
 同伴者作家B・ビリニャーク作品の革命表象に関する研究—文明の黄昏に咲いたロシア文化の花—  
 Mondì materiali.  
 Uno studio comparativo del concetto di materialità nelle opere di Ogawa Yōko

# 国際日本専攻

## 国際的な視座で「日本」を研究する

国際日本専攻では、国際的な視座から「日本」を研究するため、総合的な日本研究の視野を涵養しつつ、日本語研究、日本語教育研究、日本語文学・文化研究、日本歴史社会研究等の専門分野に応じた体系的な研究指導を行います。昨今の国際情勢の中で、「世界の中の日本」を客観的に理解したうえで、世界に向け日本を発信することができる人材の育成が急務となっていることから、本専攻は、こうしたニーズに応える日本人・留学生を社会に送り出します。



### 国際日本研究プログラム

日本に関する分野の専門知識を備えると同時に、広く日本を俯瞰し、世界の中での日本を論じることのできる能力を身につけます。

**【開講科目】**  
 日本語論/日本語教育論/言語教育論/日本語文学・文化論/日本歴史社会論/日本政治経済論/Japan Studies

**【養成する人材像】**  
 ◎日本に関する分野の専門知識を備えると同時に、広く日本を俯瞰し、世界の中での日本を論じることのできる能力を身につけた人材。特に、留学生の場合は、研究遂行に必要な高度な日本語力と、日本社会への理解を備えた人材  
 ◎日本語研究、日本語教育研究、日本語文学・文化研究、日本歴史社会研究、日本政治経済研究などの分野についての深い専門知識を身につけた人材  
 ◎国内外の大学における研究者および当該分野の専門知識をもった高度職業人。海外の高等教育機関等で活躍する日本語教育者



## 2016年度博士論文

近代日本における農業政策形成過程—食糧管理制度の成立過程を中心に—  
 南琉球宮古語多良間方言の音声学的・音韻論的構造の諸相  
 日本におけるソーシャルビジネスの理解社会学的考察—個人と組織のあり方を中心に—  
 張赫宙の日本語文学研究—植民地朝鮮/帝国日本のはざま—

博士前期課程

世界言語社会専攻

言語文化コース	
教員名	専門分野
青山 亨	東南アジア宗教学
秋廣 尚恵	フランス語学
粟屋 利江	南アジア近代史
五十嵐 孔一	朝鮮語学
市川 雅教	統計学
岩崎 務	西洋古典文学
上田 広美	カンボジア語学
浦田 和幸	英語学
大谷 直輝※	英語学、認知言語学
岡田 和行	モンゴル近代文学
岡田 知子	カンボジア文学
岡野 賢二	ビルマ語学
風間 伸次郎	アルタイ諸言語
加藤 晴子	中国語学
加藤 雄二	アメリカ文学・文化
金指 久美子	スラブ語学
川上 茂信	スペイン語学
川口 裕司	フランス語学
川島 郁夫	中国近世文学
久野 量一	ラテンアメリカ文学
黒澤 直俊	ポルトガル語学
小久保 真理江※	芸術文化
齋藤 弘子	英語音声学
逆井 聡人※	比較文学(近現代東アジア)
佐々木 あや乃	ペルシア古典文学
佐野 洋	情報工学
澤田 英夫(A)	ビルマ系少数言語
菅原 睦	チュルク語
鈴木 聡	アングロ・アイリッシュ文学
鈴木 玲子	ラオス語学
高島 英幸	英語教育学
武田 千香	ブラジル文学
田島 充士	教育心理学
趙 義成	朝鮮語学
鶴田 知佳子	通訳・翻訳学
ティップティエンボン・コースイット※	タイ文化・文学
投野 由紀夫	コーパス言語学
内藤 稔※	コミュニティ通訳研究
中川 裕	音声学・音韻論
長屋 尚典※	言語学、オーストロネシア諸語
中山 俊秀(A)	北米先住民諸言語
南 潤珍	朝鮮語学
成田 節	ドイツ語学
西岡 あかね	ドイツ文学
丹羽 京子	ベンガル文学
温品 廉三※	モンゴル語学
沼野 恭子	ロシア文学
根岸 雅史	英語教育学
野平 宗弘※	ベトナム文学
野元 裕樹	言語学、マレー語学
博多 かおる	フランス文学
萩田 博	ワールドワースタディーズ
橋本 雄一	中国近現代文学
林 和宏	イタリア古典文学
林 佳世子	オスマン朝史
匹田 剛	ロシア語学
藤井 守男	ペルシア文学・思想
藤縄 康弘	ドイツ語学
降幡 正志	インドネシア語学
ボルロンガン・アリアン・マカリンガ※	社会言語学
前田 和泉	現代ロシア文学
益子 幸江	音声学
松浦 寿夫	フランス近代芸術
真鍋 求	神経生理学
萬宮(小牧) 健策	ワールドワースタディーズ
丸山 空大※	宗教学、近代ユダヤ思想
水野 善文	インド思想
箕浦 信勝	言語学、手話諸言語
三宅 登之	現代中国語
望月 圭子	対照言語学
望月 源	自然言語処理
森田 耕司	スラヴ言語学
八木 久美子	宗教学、イスラム思想
山口 裕之	ドイツ文化・思想
山本 真司	イタリア語学
吉枝 聡子	イラン諸語研究
吉富 朝子	第二言語習得
吉本 秀之	科学技術史
渡辺 己(A)	セイリッシュ語
国際社会コース	
教員名	専門分野
青木 雅浩※	モンゴル近現代史
青山 弘之	現代東アラブ政治
飯塚 正人(A)	中東地域研究
伊東 剛史	イギリス近代史
今井 昭夫	ベトナム近現代史
今福 龍太	メディア批評
岩崎 稔	哲学、政治思想
内山 直子※	開発経済学、ラテンアメリカ地域研究
大石 高典※	アフリカ地域研究

大川 正彦	現代政治理論
小笠原 欣幸	台湾政治
岡田 昭人	比較・国際教育学
小川 英文	東南アジア考古学
小田原 琳※	イタリア史
加藤 美帆	教育社会学
蒲生 慶一	国際経済学
菊池 陽子	ラオス近現代史
金 富子	ジェンダー論
木村 暁※	中央アジア史
日下部 尚徳※	バングラデシュ現代社会論
久米 順子	西洋美術史
倉田 明子	中国近代史
栗田 博之	オセアニア研究
栗原 浩英(A)	ベトナム現代史
小松 久男	中央アジア近現代史
近藤 信彰(A)	イラン近代史
坂井 真紀子	アフリカ開発社会学
佐々木 孝弘	アメリカ社会史
澤田 ゆかり	現代中国研究
篠原 琢	中東近代史
島田 志津夫※	中央アジア地域研究
陶安 あんど(A)	中国法制史
鈴木 茂	ブラジル史
鈴木 美弥子	民法
鈴木 義一	現代ロシア研究
芹生 尚子	フランス社会史(近世・近代)
左右田 直規	マレーシア政治社会史
田島 陽一	国際経済学
巽 由樹子※	ロシア近現代史
千葉 敏之	ヨーロッパ中世史
出町 一恵※	国際経済論
土佐 桂子	東南アジア人類学
中山 智香子	経済思想・社会思想
中山 裕美※	国際関係論
西井 涼子(A)	東南アジア人類学
丹羽 泉	朝鮮宗教学
深澤 秀夫(A)	社会人類学
福嶋 千穂※	近世ポーランド・リトアニア史
藤井 毅	インド近現代史
真島 一郎	文化人類学
松隈 潤	国際法
宮田 敏之	タイ経済研究
山内 由理子	オセアニア地域研究
吉田 ゆり子	日本近世史
米谷 匡史	日本思想史
李 孝徳	比較文学
若松 邦弘	比較政治
渡邊 啓貴	ヨーロッパ国際関係論

Peace and Conflict Studies コース	
教員名	専門分野
伊勢崎 賢治	平和構築
篠田 英朗	平和構築
松永 泰行	政治学、国際関係論

国際日本専攻

教員名	専門分野
阿部 新	日本語教育学
荒川 洋平	認知言語学
石澤 徹※	日本語教育学
伊集院 郁子	日本語教育学
伊東 克洋※	日本語教育学
海野 祐郎	日本語教育学
海野 多枝	言語教育学
大津 友美	日本語教育学
川村 大	日本語学
楠本 徹也	日本語学
工藤 嘉名子	日本語教育学
小松 由美	異文化間コミュニケーション
坂本 恵	日本語学
柴田 勝二	日本近代文学
菅長 理恵	日本語、日本文学
鈴木 智美	日本語教育学
鈴木 美加	日本語教育学
伊達 宏子※	日本語教育学
谷口 龍子	語用論、日本語教育学
土田 久美子※	社会学、多文化社会論
友常 勉	日本思想史
中井 陽子	日本語教育学
中村 彰	日英統語論
花園 悟	日本語学
早津 恵美子	日本語学
春名 展生※	日本史、日本政治
藤村 知子	日本語教育学
藤森 弘子	日本語教育学
ポーター、ジョン※	日本史
宮城 徹	異文化間コミュニケーション
村尾 誠一	日本古典文学
妻 隆博	数学
林 俊成	言語教育学

(A): アジア・アフリカ言語文化研究所所属教員 ※は主任指導教員にすることができない教員

博士後期課程

世界言語社会専攻

言語文化研究プログラム	
教員名	専門分野
青山 亨	東南アジア宗教学
粟屋 利江	南アジア近代史
五十嵐 孔一	朝鮮語学
岩崎 務	西洋古典文学
上田 広美	カンボジア語学
浦田 和幸	英語学
岡田 和行	モンゴル近代文学
岡田 知子	カンボジア文学
岡野 賢二	ビルマ語学
風間 伸次郎	アルタイ諸言語
加藤 晴子	中国語学
加藤 雄二	アメリカ文学・文化
金指 久美子	スラブ語学
川上 茂信	スペイン語学
川口 裕司	フランス語学
川島 郁夫	中国近世文学
久野 量一	ラテンアメリカ文学
黒澤 直俊	ポルトガル語学
斎藤 弘子	英語音声学
佐々木 あや乃	ペルシア古典文学
佐野 洋	情報工学
菅原 睦	チュルク語
鈴木 聡	アングロ・アイリッシュ文学
鈴木 玲子	ラオス語学
高島 英幸	英語教育学
武田 千香	ブラジル文学
田島 充士	教育心理学
趙 義成	朝鮮語学
投野 由紀夫	コーパス言語学
中川 裕	音声学・音韻論
南 潤珍	朝鮮語学
成田 節	ドイツ語学
西岡 あかね	ドイツ文学
丹羽 京子	ベンガル文学
沼野 恭子	ロシア文学
根岸 雅史	英語教育学
野元 裕樹	言語学、マレー語学
博多 かおる	フランス文学
橋本 雄一	中国近現代文学
林 和宏	イタリア古典文学
林 佳世子	オスマン朝史
匹田 剛	ロシア語学
藤井 守男	ペルシア文学・思想
藤縄 康弘	ドイツ語学
降幡 正志	インドネシア語学
前田 和泉	現代ロシア文学
益子 幸江	音声学
松浦 寿夫	フランス近代芸術
萬宮(小牧) 健策	ワールドワースタディーズ
水野 善文	インド思想
箕浦 信勝	言語学、手話諸言語・アサバスカ語
三宅 登之	現代中国語
望月 圭子	対照言語学
望月 源	自然言語処理
森田 耕司	スラヴ言語学
八木 久美子	宗教学、イスラム思想
山口 裕之	ドイツ文化・思想
吉枝 聡子	イラン諸語研究
吉富 朝子	第二言語習得
吉本 秀之	科学技術史
国際社会研究プログラム	
教員名	専門分野
青山 弘之	現代東アラブ政治
伊東 剛史	イギリス近代史
今井 昭夫	ベトナム近現代史
今福 龍太	メディア批評
岩崎 稔	哲学、政治思想
岡田 昭人	比較・国際教育学
小川 英文	東南アジア考古学
加藤 美帆	教育社会学
蒲生 慶一	国際経済学
菊池 陽子	ラオス近現代史
金 富子	ジェンダー論
久米 順子	西洋美術史
栗田 博之	オセアニア研究
坂井 真紀子	アフリカ開発社会学
佐々木 孝弘	アメリカ社会史
澤田 ゆかり	現代中国研究
篠原 琢	中東近代史
鈴木 茂	ブラジル史
鈴木 美弥子	民法
鈴木 義一	現代ロシア研究
芹生 尚子	フランス社会史(近世・近代)
左右田 直規	マレーシア政治社会史
田島 陽一	国際経済学
千葉 敏之	ヨーロッパ中世史
土佐 桂子	東南アジア人類学
丹羽 泉	朝鮮宗教学
藤井 毅	インド近現代史
真島 一郎	文化人類学

松隈 潤	国際法
宮田 敏之	タイ経済研究
山内 由理子	オセアニア地域研究
吉田 ゆり子	日本近世史
米谷 匡史	日本思想史
若松 邦弘	比較政治
渡邊 啓貴	ヨーロッパ国際関係論
Peace and Conflict Studies プログラム	
教員名	専門分野
伊勢崎 賢治	平和構築
篠田 英朗	平和構築
松永 泰行	政治学、国際関係論
アジア・アフリカフィールド研究プログラム	
教員名	専門分野
荒川 慎太郎	西夏語学
飯塚 正人	中東地域研究
石川 博樹	アフリカ史
伊藤 智ゆき	音韻論
太田 信宏	インドの歴史
小田 淳一	計量文献学
刈谷 康太	西アフリカ・イスラーム地域研究
河合 香吏	東アフリカ牧畜民研究
栗原 浩英	ベトナム現代史
呉人 徳司	言語学
黒木 英充	東アラブ近現代史
近藤 信彰	イラン近代史
澤田 英夫	ビルマ系少数言語
椎野 若菜	東アフリカ民族誌学
塩原 朝子	インドネシア諸言語の記述研究
品川 大輔	記述言語学
陶安 あんど	中国法制史
高島 淳	宗教学(ヒンドゥー教)
高松 洋一	古文書学、オスマン朝史
外川 昌彦	南アジアの人類学
床呂 郁哉	東南アジア人類学
中山 俊秀	北米先住民諸言語
西井 涼子	東南アジア人類学
錦田 愛子	中東地域研究
峰岸 真琴	オーストラリア諸語
野田 仁	中央アジア史
深澤 秀夫	社会人類学
星 泉	チベット語学
山越 康裕	モンゴル諸語
渡辺 己	セイリッシュ語

国際日本専攻

国際日本プログラム	
教員名	専門分野
阿部 新	日本語教育学
荒川 洋平	認知言語学
伊東 祐郎	日本語教育学
海野 多枝	言語教育学
川村 大	日本語学
柴田 勝二	日本近代文学
鈴木 智美	日本語教育学
谷口 龍子	語用論、日本語教育学
友常 勉	日本思想史
中井 陽子	日本語教育学
花園 悟	日本語学
早津 恵美子	日本語学
藤森 弘子	日本語教育学
宮城 徹	異文化間コミュニケーション
村尾 誠一	日本古典文学
林 俊成	言語教育学

## 主な就職先

### 博士前期課程修了者の 主な就職先

#### ■ 製造業

(株)伊藤園/出光興産(株)/住友化学(株)/  
(株)ブリヂストン/住友電気工業(株)/蛇の目  
ミシン工業(株)/住友スリーエム(株)/カシオ  
計算機(株)/ソニー(株)/ダイキン工業(株)/  
(株)東芝/日本アイ・ビー・エム(株)/日本電  
気(株)/日本トムソン(株)/日本ヒューレット・  
パッカード(株)/パナソニック(株)/(株)日立製  
作所/富士ゼロックス(株)/富士通(株)/本  
田技研工業(株)/マツダ(株)/三菱自動車工  
業(株)/三菱重工(株)/森永乳業(株)/矢  
崎総業(株)/(株)ソニー・コンピュータエンタ  
テインメント/大王製紙(株)/(株)リコー/ヤ  
マハ(株)/日立アプライアンス/日立オート  
モティブシステムズ(株)

#### ■ 電気・ガス・熱供給・水道業

中国電力(株)/東京ガス(株)

#### ■ 鉱業・採石業・砂利採取業

国際石油開発帝石(株)

#### ■ 情報通信業

(株)インターネットイニシアティブ/(一社)共  
同通信社/慶應義塾大学出版会(株)/小  
松情報システムサービス(株)/(株)産業経済  
新聞社/上海東方テレビ(中国)/(株)集  
英社/(株)大和総研/(株)中日新聞社/(株)  
日本経済新聞社/(株)西日本新聞社/日  
本放送協会(NHK)/(株)東日本放送/  
(株)毎日新聞社/富士ソフト(株)/富士ゼロ  
ックスシステムサービス(株)/明治図書出版  
(株)/読売新聞グループ/(株)リクルートホー  
ルディングス/勉誠出版(株)/(財)ラヂオプ  
レス

#### ■ 運輸業・郵便業

(株)商船三井/ヤマト運輸(株)

#### ■ 卸売・小売業

宇津商事(株)/(株)カインズ/住友商事(株)/  
(株)セブン-イレブン・ジャパン/双日(株)/  
豊田通商(株)/(株)日立ハイテクノロジーズ/

三井物産(株)/三菱商事(株)/森村商事(株)  
(株)ルイ・ヴィトンジャパンカンパニー/(株)  
ユニクロ/(株)ニトリ

#### ■ 金融業・保険業

アメリカン・エクスプレス・ジャパン(株)/岡  
三証券(株)/JPモルガン証券(株)/ソシエ  
テ・ジュネラル証券(株)/大和証券(株)/日  
本銀行/(株)日本政策投資銀行/(株)日本政  
策金融公庫/みずほ証券(株)/(株)三菱東  
京UFJ銀行/(株)ゆうちょ銀行

#### ■ 建設業

新日鐵住金エンジニアリング(株)/大成建設(株)

#### ■ 不動産業

野村不動産(株)

#### ■ 教育、学習支援業・学校教育

慶應義塾大学/(独)日本学生支援機構  
(株)栄光/神奈川県立高等学校/鎌倉  
学園中学校・高等学校/佼成学園女子中  
学高等学校/國學院高等学校/埼玉県  
立小学校/昭和学院秀英中学校・高等  
学校/帝京大学/(株)Z会/東京外国語大  
学/東京大学/東京都立中学校/(株)ベ  
ネッセコーポレーション/宮城県立高等学  
校/山形県立高等学校/早稲田大学/  
東京農業大学/海城中学高等学校/ペオ  
グランド大学(セルビア)/女子学院中  
学・高等学校/学習院女子中・高等科/  
福州大学(中国)

#### ■ 医療、福祉

日本赤十字社

#### ■ サービス業

(独)国際交流基金/(独)日本学術振興会  
(財)日本国際協力システム/(独)日本貿  
易振興機構アジア経済研究所/(株)図書館  
流通センター/公益財団法人新国立劇場  
運営財団/(独)高齢・障害・求職者雇用支  
援機構/(独)住宅金融支援機構/公益社  
団法人日本・インドネシア経済協力事業協  
会/ヒューマンリソシア(株)/(独)石油天然ガ  
ス・金属鉱物資源機構/(独)日本貿易会

#### ■ 公務

国立国会図書館/総務省(関東管区行政

評価局)/東京都庁/農林水産省/防衛  
省(※自衛隊など含む)/横浜市役所

#### ■ 学術研究専門・技術サービス業

アクセンチュア(株)/アンダーソン・毛利・友  
常法律事務所/グレイステクノロジー(株)/  
(独)新エネルギー・産業技術総合開発機  
構/(株)テクニカルトランスレーションハウス  
/デロイトトーマツコンサルティング(株)/(株)  
電通/(財)日本海事協会/日本工営(株)/  
(株)ヒューマンサイエンス/(株)ホンヤク出版  
社(株)/(株)ワールドインテック

#### ■ 生活関連サービス業、娯楽業

(株)オリエンタルランド/(株)JT/B/(株)  
CECIL/クラブツーリズム(株)

### 博士後期課程修了者の 主な就職先

#### ■ 情報通信業

NHN PlayArt(株)

#### ■ 卸売・小売業

(株)Super Dieboard System in Japan

#### ■ 教育、学習支援業・学校教育

廈門大学(中国)/京都産業大学/高知大  
学/国際交流基金バンコク日本文化セン  
ター/島根大学/駿河台大学/西南学院  
大学/燕山大学外国語学院(中国河北省)  
/青島科学技術大学(中国山東省)/帝京  
科学大学総合教育センター/東京外国語  
大学/明星大学/早稲田外国語学校/名  
古屋外国語大学/国際教養大学/タシケ  
ント国立東洋学大学(ウズベキスタン)/中  
央大学高等学校

#### ■ サービス業

(独)日本貿易振興機構アジア経済研究  
所

#### ■ 公務・国家公務

法務省

# 大学院

総合国際学研究科は、  
世界諸地域の言語の  
運用能力を基礎とした、言語・文化・社会  
をめぐる個別かつ総合的な研究の伝統  
を特色とする教育機関です。さらに、このよ  
うな伝統を踏まえながらも、常に時代の変  
化に対応した刷新を図っています。2016年  
度には博士前期課程を、2018年度には博  
士後期課程を改編し、それぞれに「世界言  
語社会専攻」と「国際日本専攻」を設けまし  
た。

近年のグローバル化により、人・もの・資  
本・情報の越境が量的・質的に拡大し、わ  
たしたちに多くの恩恵がもたらされた一方で、  
世界規模での格差の拡大や難民問題など  
複雑な課題が生み出され、わたしたちが取  
り組むべき問題はむしろいっそう多面的で  
複雑になっています。

このような状況に対応できる能力を身に  
つけるためには、固定化された学問分野の  
枠組みにとらわれない柔軟な教育体制が  
必要です。そのため、従来の4専攻を融合し  
て「世界言語社会専攻」とし、多様な問題  
に対して、俯瞰的な視点によって物事を捉  
える総合力と、コミュニケーションやコーディネーションの具体的な実践力を併せもった  
人材の養成をスタートさせました。

他方、日本という地域・社会についてもグ  
ローバルなコミュニティーとの関係性の中で  
捉える必要があります大きくなっていること  
から、日本地域・日本語の教育研究を行う  
「国際日本専攻」を設置しました。この新し  
い専攻には国内外の先進的研究者も招聘  
し、「世界の中の日本」を客観的な視座をも  
って理解し、世界に向け日本を発信するこ  
とのできる人材の養成を目指します。

このように常に生まれ変わっていく本学  
大学院において、新たな視点による世界と日  
本についての新たな理解を探求し、「総合  
国際学」をさらに深化させようとするわた  
したちのチャレンジに、皆さんが熱意をもって  
参加して下さることを心より願っています。



研究科長メッセージ Message with Toru Aoyama

大学院総合国際学研究科長 青山 亨

## 2018年度入学者選抜日程

### 博士前期課程

#### 1. 募集人員

専攻	入学定員	コース	募集人員			
			特別選抜(推薦)	秋季	冬季	合計
世界言語社会専攻	102人	言語文化コース	若干名	50人*	若干名	50人
		国際社会コース	若干名	40人*	若干名	40人
		Peace and Conflict Studiesコース	—	—	12人	12人
国際日本専攻	46人	国際日本コース	若干名	40人*	若干名	40人
		日本語教育リカレントコース	—	6人	—	6人

\*秋季募集の募集人員には、「冬季募集」「特別選抜(推薦入試)」の募集人員を含む。

#### 2. 入学試験日程

##### 特別選抜(推薦入試)[平成30年4月入学]

出願期間	選抜期日				入学手続
	第1次選考(書類選考)	第1次合格者発表	第2次選考(口述試験)	最終合格者発表	
平成29年8月2日(水) ～8月4日(金)	平成29年8月下旬	平成29年8月25日(金)	平成29年9月2日(土)	平成29年9月8日(金)	平成30年1月15日(月) ～1月16日(火)

##### 秋季募集[平成30年4月入学]

出願期間	選抜期日			入学手続
	筆答試験	口述試験	最終合格者発表	
平成29年9月20日(水) ～9月26日(火)	平成29年10月14日(土)	平成29年10月15日(日)	平成29年11月6日(月)	平成30年1月15日(月) ～1月16日(火)

##### 冬季募集[平成30年4月入学]

###### ■世界言語社会専攻

出願期間	選抜期日			入学手続
	筆答試験	口述試験	最終合格者発表	
平成30年1月4日(木) ～1月9日(火)	平成30年2月3日(土)	平成30年2月3日(土) ～2月4日(日)	平成30年2月16日(金)	平成30年3月26日(月) ～3月27日(火)

###### ■国際日本専攻

出願期間	選抜期日				入学手続
	第1次選考(書類選考)	第1次合格者発表	第2次選考(口述試験)	最終合格者発表	
平成30年1月4日(木) ～1月9日(火)	平成30年1月中旬	平成30年1月19日(金)	平成30年2月3日(土) ～2月4日(日)	平成30年2月16日(金)	平成30年3月26日(月) ～3月27日(火)

### 世界言語社会専攻 Peace and Conflict Studiesコース[平成30年10月入学]

出願期間	選抜期日		入学手続
	口述試験	最終合格者発表	
平成30年1月4日(木) ～5月11日(金)	個別に設定	平成30年6月下旬	平成30年6月下旬 ～7月上旬

### 国際日本専攻 日本語教育リカレントコース[平成30年10月入学]

出願期間	選抜期日		入学手続
	口述試験(Skype面接)	最終合格者発表	
平成29年9月20日(水) ～9月26日(火)	平成29年10月10日(火) ～15日(日)	平成29年11月6日(月)	平成30年6月下旬 ～7月上旬

※本コースは、日本国外に在住する現職の日本語教員を対象として募集する。

### 博士後期課程

#### 1. 募集人員

専攻	募集人員		
	4月入学	10月入学	合計
世界言語社会専攻	25人	5人*	30人
国際日本専攻	9人	1人	10人

※世界言語社会専攻の「10月入学」に志願できる者は、次のいずれかに該当する者とする。

- ①Peace and Conflict Studies (PCS) 分野を志願する者
- ②出願時において、日本国を含む各国政府機関や国際機関等の正規の職員として、日本国以外で勤務中の者
- ③その他、本学大学院総合国際学研究所長が適当と認めた者

#### 2. 入学試験日程

##### [平成30年4月入学]

出願期間	論文提出期間	選抜期日		最終合格者発表	入学手続
		筆答試験	口述試験		
平成29年11月20日(月) ～11月24日(金)	平成29年11月20日(月) ～平成30年1月9日(火)	平成30年1月27日(土)	平成30年1月27日(土) ～1月28日(日)	平成30年2月16日(金)	平成30年3月26日(月) ～3月27日(火)

##### [平成30年10月入学]

出願期間	論文提出期間	選抜期日		入学手続
		口述試験	最終合格者発表	
平成30年3月1日(木) ～5月11日(金)	平成30年3月1日(木) ～6月1日(金)	平成30年5月下旬 ～6月上旬	平成30年6月下旬	平成30年7月下旬頃

入学者選抜日程の最新情報は、大学院総合国際学研究所のウェブサイトに掲載します。